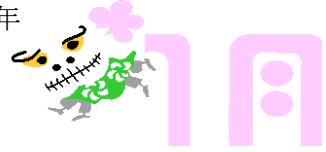




二葉幼稚園

2026年



1月の聖句

イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人とに愛された。
ルカによる福音書2章52節

1月のさんびか

どんなときでも

こどもさんびか改訂版129

じっくりと/広がる



新年が開けてすぐ、島根・鳥取地方での地震、関西でも揺れを体感した方々がいらっしゃることでしょう。心配事は絶えませんが子ども達とどんな未来を創りたいかじっくり考る年にしたいです。

例年、園児募集の説明会で子ども達の「ありのままの姿」を受け入れていきたいと話しています。冬休み、ふと手にした1冊の本を読み始めると「ありのままの私を Just As I Am」という頁がありました。このようなエピソードが載っていました。(以下「」内引用)

「(前略)ある既婚の男性が、どういきさつから彼が毎朝、「神さま、私に妻を与えてくださってありがとうございます」と祈るようになったのか、その体験を話してくれました。彼によると、数ヵ月そのように祈った後、その祈りは自然と、「神さま、ありのままの彼女を与えてくださってありがとうございます」というものへと変えられていったそうです。彼はそれから「ありのままの彼女を」というくだりがどんなに大きな違いを彼の心にもたらしたのかを話してくれました。

やがて話題は他のことへと移っていましたが、そのパーティーが終った後、私の心にある祈りが沸き起きました。私も同じ祈りを神に向かってささげてみたのです。

「神さま、ありのままの私の人生をありがとうございます」「ありのままの家族をありがとうございます」

「神さま、私のありのままの仕事をありがとうございます」

それぞれの祈りに「ありのまま」への感謝を付け加えた時から、私の態度が変わり始めました。その日から、私はささやかなことにでも喜びを見出せるようになり、他の人をあるがままに受け入れられるようになっていったのです。たとえ厳しい現実の中にあっても「信仰による単純な行いがすべてを良きものに変える」というこのささやかな知識のゆえに、神に感謝できるようになったのです。(ハートウォーミングストーリー with ノーマン・ロックウェル 珠玉のエピソード22編 マーガレット・ファンバーグ文 / ノーマン・ロックウェル 絵 / 福島さゆみ 訳 / 2005年 / いのちのことば社フォレストブックス P41)」と。

ありのままを、と祈る前にいつも難しいのは、歳を重ねても失敗を繰り返す、不甲斐なき「ありのままの自分」を受け入れること、です。新年にそぐわないかもしれません、皆様はそう思う時がありますか? 悶々とした気持ちでいると、ある人が「いい加減で、頼りなく、どうしようもない自分。でも、それでも尚、なんとかよく生きようともがいている生命。その自分こそ、かけがえのない存在ではないか。」と五木寛之「生きるヒント」という本の中にある言葉を(詳細は不明)かけてくれました…。

午年。童謡♪1, おうまの親子は仲良しこよし いつでもいっしょにぼっこりぼっこり歩く♪ 2, おうまの母さん やさしい母さん こうまをみながらぼっこりぼっこり歩く♪(おうま 作詞:林柳波 作曲:松島つね)ふと周りを見渡せば一緒にぼっこりぼっこり寄り添って歩いている誰かがいます。私にとっては神さまだったり、家族、友達、同僚、仲間、ふたばっこファミリーの皆さんだったり…。どんなときでも愛して下さる神さまに「ありのままの自分」を支え導いて下さることへの感謝を忘れず「ありのままの子ども達」とじっくり関り、その関係や遊びが広がるよう、一緒にぼっこりぼっこり歩いていきたいものです。【園長】